

提 案 概 要

実施期日	7月28日(火)【午後】
部 会 名	小学校 図画工作部会

1 提案テーマ 『表現する喜びを味わう図画工作の授業』を目指して

2 単元(題材) 『粘土絵～土から絵具をつくってみよう～』

3 学年 第5学年

4 平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

② 感じ取ったことを手や体全体を十分に働かせて表現したり、描いたりつくったりする活動や鑑賞する活動を、〔共通事項〕と関連させる指導と評価の一体化

5 学習指導要領との関連

第2章 第7節 図画工作 第2 各学年の目標及び内容〔第5学年及び第6学年〕 2 内容

A 表現 (2) ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。

B 鑑賞 (1) イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること。

〔共通事項〕(1)イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

6 実践に向けての課題意識

年度当初、テーマに沿って自由に表現する際に「どのように表現したらいいのか」イメージがもてないという児童がいた。その根底には自分の表現に対する自信がないことと、絵に表す際もそっくりに描かなくてはならないという先入観があることが分かり、自分の思い通りに表現することができるようになるためには、どのような題材を設定すればいいのかを考えるようになった。そこで、年間を通して「自信がなかったり、苦手意識をもっていたりする児童でも自分の思いを表現できるような題材」に取り組むことで、児童が表現する喜びを味わえるようになってほしいという課題意識をもった。

7 実践の概要

実践に向けての課題意識をもつ中で、以下の点を考慮した。

○指導方法の工夫

- ・授業の導入では、材料や用具との出会いを大切に、年間を通して様々な材料や用具と出会わせ、児童が表現したいことの幅を広げられるようにした。
- ・各単元計画の中に児童が自分の表現したいことを見つけたり、作りながら想像をふくらませたりすることができるように、試す(材料の特性を知る・用具に慣れる)時間を十分に確保した。
- ・作品の製作の途中にお互いの作品を見合い、自分の作品に生かせる場所を探す場を設定した。

○評価の工夫

- ・作品を完成させるまでの過程(製作途中の児童の動きやつぶやき、児童への聞き取り、児童同士の関わり合いなど)を記録し、評価に生かした。

8 成果と課題

○成果 自分の表現したいことを試す時間を十分に確保することで、自分の表現に対して自信をもてるようになった。

○課題 作品づくりに対する時間の割り振りや個人差をどう解消していくか。

9 予想される協議の柱

○児童の変容と活動の見取りをどのように行うか。

○発想・構想力を引き出すためにどのような手立てが必要か。